

令和 6 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	34	学校名	茨城県立那珂高等学校				課程	全日制				学校長名	阿内 勉			
教頭名	宮地 富雄								事務(室)長名	市村 晃一						
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	5	実習講師	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	50
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		85	78	64	86	63	85	0	0	212	249	12			

2 目指す学校像

- ・ 基本的生活習慣を確立し、自主性・自立性を育みながら、希望する進路を実現する学校（誠実）
- ・ 国際理解教育を推進し、異文化を理解しグローバルな視点に立つ人材を育成し、地域社会に貢献する学校（進取）
- ・ 互いに尊重し合い切磋琢磨しながら、よりよく生きるための資質・能力を育てる学校（敬愛）

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立により、生徒の自主性・自立性を育みながら、望ましい職業観を養うことで希望する進路を実現する。 ・ 国際理解教育を推進し、「異文化を正しく理解しグローバルな視点に立つ人材」を育成するとともに、地元の歴史・文化を重んじ地域社会と連携・協力する態度を養う。 ・ 互いに切磋琢磨するとともに思いやりの心を持ち他者と協働することにより、よりよく生きるための資質・能力を育てる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「何のために学ぶのか」を意識させることで、自らの意志で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。 ・ 生徒が自主的に活動し、いきいきと学校生活を送ることができる活力ある多彩な特別活動を実践する。 ・ 外国語授業や海外人材との交流をとおして国際理解教育を推進し、「異文化を正しく理解しグローバルな視点に立つ人材」を育成する。 ・ 家庭や地域社会、学校間で連携、協働するなど、学校外の資源を活用した学校教育活動を充実させる。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や現代社会の諸問題に関心を持ち、積極的に探究しようという意欲のある生徒。 ・ 自分の進路実現を目指し、日々努力することができる生徒。 ・ 社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事や部活動に積極的に取り組む意欲のある生徒。

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	進学希望者が増えていることから、授業では、基礎学力の向上を重視している。家庭での学習時間が少なく、各学年、各教科で、家庭学習の課題を工夫して細やかに指導している。	高校卒業後の進路目標を早期に立てるとともに、日頃の学習意欲を高めて、家庭学習の習慣化を図る。また、学習のモチベーションの維持、学力向上及び定着に向けて、学校全体で取り組む。
進路指導	大学進学率が46.7%で、過去20年間で2番目に高かった。国立大学の合格者は2名。就職は、企業就職が19名、公務員が2名であった。多様な希望進路に対応するために、保護者・生徒へ進路に関する有益な情報提供を学習アプリの連絡機能で行っている。	引き続き、早期から進路の意識付けを行い、一人一人に寄り添ったきめ細かな学習指導や進路指導をして、多様な進路希望の実現に努める。また、職員が生徒の多様な進路希望に応じた効果的な教育活動が行える体制づくりを行い、一人一人の生徒の進路希望の実現を図っていく。
生徒指導	全体的に規範意識が高く、きちんとした制服の着こなしが定着しつつあるが、着こなしが乱れる生徒が一部いた。また、情報モラルの遵守等で指導の必要な生徒が若干見られた。	基本的な生活習慣を確立するとともに、制服をきちんと着こなす意味を理解させる。また、公共の場所では、公共マナーの意識をさらに高めて、周囲の人のことを考えて行動できるよう意識を高める。
特別活動	アフターコロナの中で、遠足やクラスマッチなどの学校行事について実施方法を工夫して取り組んでいる。多くの生徒が、学校行事に積極的に取り組む姿勢が見られた。	感染症対策の徹底、実施方法を工夫して、学校行事をできる限り実施して、生徒の思い出づくりにつなげる。那珂市等の地域社会活動やボランティア活動に積極的に参加して地域貢献の意識向上に努める。
国際理解教育	新型コロナウイルス感染症の影響で、海外研修が実施できない状況が続いていた。また、社会情勢等により海外研修費が高額になり、海外研修の応募状況が難しくなっている。	費用面を考慮した方法で、国際理解教育を推進して、学校の特色づくりにつなげていく必要がある。国際交流について可能な方法で実施できるように検討・計画する。
働き方改革	すべての教職員が、毎月の時間外勤務が45時間以内となるよう、効率よく業務を進める意識をもって校務にあたっている。	業務の優先順位づけ、教材の共有化、業務の精選・効率化などをさらに進めて教職員がワークライフバランスを意識して、メリハリをつけて勤務する。

5 中期的目標

- 1 「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有し、授業改善を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、学習評価の充実を図る。
- 2 カリキュラムマネジメントの充実を図り、自らの意志で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。
- 3 生徒の自主的な活動を充実させ、生徒がいきいきとした学校生活を送れるように、特別活動の充実を図る。
- 4 海外派遣や海外からの訪問団の受入等を通して、異文化を正しく理解しグローバルな視点を持った人材育成と国際理解教育を推進する。
- 5 家庭や地域社会、学校間で連携、協働するなど、学校外の資源を活用し、教育課程及びその他の学校教育活動の充実を図る。
- 6 全体の校務の整理を図りながら、校務分掌の見直しや職員一人一人の業務の効率化を通して働き方改革を推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目		重点目標
学習指導	生徒の主体的な学びと育成すべき資質・能力を身に付けさせるための授業改善・学習評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業時間の確保とR P D C Aサイクルによる授業や学習指導法の改善 ② 評価方法の工夫・改善 ③ 家庭学習の習慣化と時間増のため、学習方法の指導の工夫 ④ 主体的な学びにつながる課外授業の充実と積極的参加促進 ⑤ 学校図書館・六葉館の積極的活用
進路指導	高い目標へ向けた主体的な進路選択と教師の支援を含めた達成	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 進路意識の高揚を図るための発達段階に応じた個別的な進路指導 ⑦ 進路情報等の収集・分析による計画的な進路指導 ⑧ 個別面談の質的・量的充実 ⑨ 生徒の探究活動と関連した進路指導
生徒指導	主体的で自律的な生活態度の確立	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 基本的な生活習慣の定着と規範意識の涵養 ⑪ 進路指導と連携した生活指導の推進 ⑫ 教育相談による心のケアの充実 ⑬ 家庭や地域社会及び関係機関との密接な連携による問題解決
特別活動	主体的で活力ある学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ⑭ 感染症予防対策の徹底と、学校行事やホームルーム活動等への積極的な参加の促進 ⑮ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化 ⑯ 部活動等への積極的な参加の促進 ⑰ 主体的に探究活動に向かう姿勢の育成 ⑱ キャリア・パスポートを適切に活用し、学びの蓄積と振り返りによる自己のキャリア教育の促進
国際理解教育	日本や外国の文化に対する関心理解の深化と他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 海外短期留学や異文化理解活動の円滑な実施 ⑳ 多様な交流事業等を通して国際理解教育の促進とグローバルな視点を持つ人材の育成 ㉑ アフターコロナの中での国際理解教育の推進に向けた取組の工夫
働き方改革	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ㉒ 職員全体による勤務時間を意識した働き方改革の推進 ㉓ 業務の整理と効率化
授業改善	個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ㉔ 一人一人の学びに合わせた、指導の個別化と学習の個性化の推進 ㉕ 課題解決に向けた、ICT活用、探究的な学び、協働的な学び合いの推進 ㉖ 多様な学習ニーズに対応した学びの検討 ㉗ 「生徒による授業評価」肯定的回答者70%以上